

令和7年度 幼稚園評価・自己評価報告書

当園では、職員による令和7年度の幼稚園評価・自己評価を実施いたしました。

職員一人ひとりが自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直す良い機会となりました。また、それぞれの評価結果について皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価結果を深く受け止め、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上、安全管理に一層努めてまいりたいと思います。

1. 本園の教育目標

- ・様々な実体験（あそび）を通し、一人ひとりの感性を磨く。
- ・一人ひとりの個性を尊重しながら可能性を引き出し、生きる力の基礎を培う。
- ・園児の健やかな成長が図れるよう、その心身の発達を助長する。
- ・必要に応じ、保護者に対して子育てに関する悩み、相談に対応できる体制を構築する。

2. 評価

| 評価の基準 | | ※以下の基準で評価を行いました。 | |
|------------------------|-------------------|------------------|-----------|
| A...十分理解出来ている（十分出来ている） | B...理解している（出来ている） | C...普通 | D...努力が必要 |

| | 評価項目 | 結果 |
|-----------|---|----|
| 教育・保育の基本 | ①教育・保育理念及び目標と教育・保育要領の関係を理解し、教育課程、教育・保育の全体的な計画、及び子育ての支援計画に基づいて、指導計画を立てている。 | B |
| | ②指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき指導計画を改良している。 | B |
| | ③幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を考慮し、指導計画をたて指導している。 | B |
| | ④認定こども園における教育及び保育は、幼児期全体を通して、その特性及び保護者や地域の実態を踏まえ、環境構成を行うものであることを基本とし、家庭や地域での生活を含めた園児の生活全体が豊かなものとなるように努めている。 | B |
| | ⑤一人ひとりの子どもの特性や発達の過程に応じ、保育目標、保育の実際について話し合うための会議を定期的、又は必要に応じて行っている。 | B |
| 保育環境・保育内容 | ①園児との信頼関係を十分に築き、園児が自ら安心して身近な環境に主体的に関わり、その活動が豊かに展開されるよう環境を整え、園児と共によりよい教育及び保育の環境を創造するよう努めている。 | A |
| | ②幼児期は周囲への依存を基盤にしつつ自立に向かうものであることを考慮して、園児一人ひとりが周囲との生活の中で安心感と信頼感をもって色々な活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるよう環境を整え、保育をしている。 | A |
| | ③環境は、具体的なねらいを達成するために適切なものとなるように構成し、園児が自らその環境に関わることにより様々な活動を展開しつつ必要な体験を得られるようにしている。 | C |
| | ④子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。 | A |
| | ⑤子どもが自発的に活動出来る環境が整備されている。 | C |
| | ⑥身近な自然や社会と関われるような取り組みがされている。 | B |
| | ⑦様々な表現活動が自由に体験出来るように保育環境が配置されている。 | B |
| | ⑧遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。 | A |
| | ⑨学校環境衛生基準に基づき認定こども園の適切な環境の維持、施設内外の設備、用具等の衛生管理に努め、園児及び全職員が清潔を保つとともに、職員は衛生知識の向上に努めている。 | A |
| | ⑩性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。 | B |

| | 評価項目 | 結果 |
|---------|---|-----------|
| 健康管理 | ①保健計画を作成する際は、全ての職員が、そのねらいや内容を踏まえ、園児一人ひとりの健康の保持及び増進に努めている。 | B |
| | ②園児の健康状態や発育及び発達の状態について、定期的・継続的に、必要に応じて随時、把握している。 | A |
| | ③アレルギー疾患を有する園児に関しては、保護者と連携し、医師の診断及び指示に基づき、適切な対応を行うとともに研修などにより必要な知識や情報を得たり、理解を図るための取り組みを行っている。 | B |
| | ④登園時や保育中の子どもの健康管理やケガに対して、適切な対応や体制が整備されている。 | A |
| | ⑤園児の心身の状態を観察し、不適切な養育の兆候が見られる場合には、市町村や関係機関と連携し、適切な対応を図っている。 | B |
| 安全衛生 | ①バスや保育に於けるヒヤリハットについて話し合い、事故防止のための具体的な取り組みを行っている。 | A |
| | ②災害の発生時に、保護者等への連絡および子どもの引き渡しを円滑に行うため、日頃から保護者との密接な連携に努め、連絡体制や引き渡し方法等について確認をしている。 | B・C 同数 |
| | ③施設内外の危険箇所の点検を行い、不審者の侵入防止のためのシステム訓練など不測の事態に備え必要な対応を行っている。 | A |
| | ④給食室の衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。 | C |
| 食事・食育 | ①食べ物が育つ過程を理解し、食材が命あるものとだと感謝の気持ちを持てる機会を設けている。 | B |
| | ②食事を楽しむ工夫をしている。 | B |
| | ③認定子ども園における食育は、健康な生活の基本としての食を営む力の育成に向け、その基礎を培うことを目標とし園児が生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う園児に成長していくことを期待するものであることを理解し、指導している。 | B |
| 子育て支援 | ①日常の様々な機会を活用し、園児の日々の様子の伝達や収集、教育及び保育の意図の説明などを通じて、保護者との相互理解を図るよう努めている。 | B |
| | ②子育て支援に関する知識や技術など、保育教諭の専門性を高め、認定子ども園の特性を生かし、保護者が子供の成長に気づき子育ての喜びを感じられるように努めている。 | C |
| | ③子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。 | C |
| 地域連携 | ①近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼したりするなどの配慮をしている。 | C |
| | ②実習生やボランティアなどの受け入れの意義、方針が全職員に理解されている。 | C |
| | ③地域の方との交流の場を設けている。 | C |
| 小学校との接続 | ①認定子ども園においては、その教育、保育が、小学校以降の生活や学習の基礎の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにしている。 | B |
| | ②認定子ども園の教育及び保育において育まれた資質、能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との交流の機会などを設け、円滑な接続を図るよう努めている。 | B・C 同数 |
| | ③指導の過程を振り返りながら園児の理解を進め、園児一人ひとりのよきや可能性などを把握し、指導の改善に生かすようにしている。 | B |
| 組織運営 | ①園の方針の下に園務分業に基づき保育教諭が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、全体的な計画や指導の改善を行っている。 | B |
| | ②保育の内容について、自己評価を行っている。 | A・B 同数 |
| | ③職員のニーズを把握し、定期的に研修を行っている。 | A |
| 情報 | ①情報提供にあたって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。 | B |
| | ②保育の実施にあたり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。 | B |
| | ③個人情報適切に取り扱うとともに、プライバシーの保護、秘密保持、保護者からの苦情に対し、その解決を図るよう努めている。 | A |

3 総合的な今年度の評価

| 評価 | 理由 |
|----|--|
| B | <p>(5歳児 年長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の反省を生かし行事の分散化を図ったため、子どもたちの負担になることなく、一つひとつの行事を楽しく取り組むことができた。 ・小学校進学に向けて、場面に応じてけじめをつけることの大切さに気づけるようになってきたことで、少しずつ意識できるようになった。 |
| | <p>(4歳児 年中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間で報告、連絡、相談をきちんと行い、取り組むべき課題について考え話し合うことで、それを実践できた。 ・各クラスの様子を伝え合い、お互いの課題や悩み事を共有することで解決にまで至らなくとも助け合ってより良い保育をすることができたと思う。 |
| | <p>(3歳児 年少)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりを理解し、その子に合った援助、言葉かけをすることができたと思う。 ・4月当初に比べると、けじめや生活の流れの理解、食事のマナー等が身についたので成長を感じられた。 ・内向的な子への積極的な言葉かけをしていくうちに少しずつ発言や笑顔が増えている。 |
| | <p>(2歳児 れんげ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2クラスで雰囲気は全然違ったが、生活の仕方や手順など、そろえられるように話し合っ決めて、基本的なところができるだけ同じようにできるようにしてきた。 ・早朝から、うさぎぐみで夕方遅くまでいる子が多いので、スキンシップをたくさんとり、安定した気持ちで過ごせるよう気をつけて保育し、子どもたちはのびのび活動していたように感じる。 |
| | <p>(1歳児 ゆり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期中旬頃まで、子ども9名に対し、保育者3名で保育を行うことができた。その為、子ども一人ひとりに対し成長に応じた補助や促しを丁寧に行うことができた。 ・季節に応じた園外保育を計画し、園内だけでは経験が難しいことを見たり、触ったり、感じたりすることができた。 |

4. 課題と改善点

| |
|---|
| <p>(5歳児 年長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解力や記憶力、判断力が一層発達していく年齢のため、もう少し難しいことにもチャレンジできるような機会を作っていく必要がある。 |
| <p>(4歳児 年中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間園にいる子どもの心身のケアが必要な場面があったので、延長保育担当の保育者との連携をよりスムーズにしていく。 |
| <p>(3歳児 年少)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育的な体を動かす活動、生活リズムの確立など、園だけでは難しいこともあるので、家庭で取り組んでほしいことを保護者に伝え、上手く連携を図っていく。 |
| <p>(2歳児 れんげ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育時間が長い子の保護者には送迎などでも会う機会が少なく、連絡をとったり子どもの様子を伝えたりするコミュニケーションがとりにくかった。 |
| <p>(1歳児 ゆり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階の差で同じメニューの給食でも食べられなかったり、食べにくかったりするものが多くあった。保育者、栄養士が子ども一人ひとりの食事に対する発達状況を共有し、全員が楽しく食べることができ、食に興味をもてるようにしていく。 |